

第11回日本総合歯科学会総会・学術大会の報告

田口 則 宏 (大会長)

吉田 礼子 (準備委員長)

第11回日本総合歯科学会総会・学術大会は、平成30年10月27日(土)、28日(日)に、鹿児島県歯科医師会館において開催いたしました。大会テーマは「地域から求められる総合歯科医療を考える」とし、公益社団法人鹿児島県歯科医師会の多大なるご支援とともに、鹿児島大学歯学部同窓会、公益財団法人鹿児島観光コンベンション協会の協力を頂きながら運営いたしました。本学術大会では特別講演1題、シンポジウム2題(うち1題は認定医研修会)、ランチョンセミナー1題の企画と共に、口演7題(うち優秀口演選考対象発表3題、一般口演4題)、ポスター発表37題(うち若手ポスター18題、一般ポスター19題)の発表が行われ、220名を超える参加者とともに熱心な討論、意見交換が行われました。

大会1日目に開催された特別講演は、地域に根差した総合歯科の先駆者として全国的にも高名な伊東隆利先生(熊本県、伊東歯科口腔病院理事長)にご登壇いただき、「どんな歯科医師が望まれているか?どんな歯科医師になれるか?どんな歯科医療を提供できるか?」というテーマでご講演をいただきました。社会が求めている歯科医療者の役割を再認識するとともに、今後我々が推進していくべき仕事を改めて考える素晴らしい機会をご提供いただきました。



開会の挨拶をする田口則宏大会長

特別講演

また、同日にはシンポジウム1として、「災害時に求められる総合歯科医療」のテーマのもと、森田浩光先生(福岡歯科大学、教育検討委員会委員)座長のもと、越野 寿先生(北海道医療大学)による「北海道南西沖地震(および東日本大震災)での地域歯科と連携した歯科医療支援」、高田正典先生(日本歯科大学新潟病院)による「災害時から平時までの総合歯科医の役割」、山添淳一先生(九州大学)による「災害時歯科医療支援からみえてきた多職種連携における口腔総合診療医～熊本地震・九州北部豪雨災害の支援活動の経験～」、太田秀人先生(おおた歯科クリニック)による「三度の災害歯科医療支援経験を検証する～総合歯科医と災害歯科コーディネーターの役割～」と、4名のシンポジストの先生方の講演が行われました。大規模災害時における総合歯科医の役割を考えるうえで、これまでの経験や実績を将来に活かしていくことができる、素晴らしい情報共有の機会となりました。

併せて当日、株式会社ニッシンの協賛のもと、ランチョンセミナー「若手歯科医師を総合歯科医に育成するための試み」と題して、木尾哲



シンポジウムの様子

朗先生（九州歯科大学）の座長により金崎伸幸先生（医療法人仁和社会カナザキ歯科）および太田博見先生（医療法人仁慈会太田歯科）のご講演が行われました。若手歯科医師を養成する開業歯科医の取組みとしては大変興味深く、大学関係者から高い関心が集まっていました。

大会2日目にはシンポジウム2として、「地域から求められる総合歯科医療—様々なシチュエーションで考える—」のテーマのもと、次期（第12回）学術大会長の井上哲先生（北海道大学）の座長により、大戸敬之先生（鹿児島大学）による「離島における総合歯科医療」、榎安秀樹先生（医療法人秀和会つがやす歯科医院）による「地方都市における総合歯科医療とは—開業医・管理型臨床研修施設として考える—」、鶴田潤先生（東京医科歯科大学）による「近未来の都市部での総合歯科医療—様々なシチュエーションで考える—」の3名のシンポジストによる講演が行われました。総合歯科医が日常的に関わる様々なシチュエーションを想定し、離島、地方、都市部など様々な地域性をふまえた総合歯科医療を考える有意義な機会となりました。なお、シンポジウム1, 2の講演内容について、各シンポジストにレビュー、論文にお纏めいただき、本誌に掲載しておりますので、是非ご覧ください。



ポスター発表

大会1日目の学術大会後の会員懇親会は、学術大会会場にほど近い、鹿児島市の天文館にある「リバティークラブ」において、想定を大幅に上回る160名以上の参加者を得て盛大に開催されました。

閉会式では、学会論文賞として大戸敬之先生（鹿児島大学）、優秀口演賞として宮城 葉先生（徳島大学）、最優秀若手ポスター賞として阿部朋子先生（新潟大学）、優秀ポスター賞として阿瀉濱陽子先生（九州大学）、安丸功基先生（長崎大学）、山中秀敏先生（新潟大学）がそれぞれ選出され、表彰式が行われました。



優秀口演賞の表彰



最優秀若手ポスター賞の表彰

本学術大会は11回目の開催となり、新たな10年のスタートを切る節目となる大会となりました。大会期間中に開催された総会において次期理事長が選出されるなど、本学会の将来像を垣間見ることができました。本学会がますます飛躍し、社会から求められる総合歯科医を育成し輩出できる団体として成長するためのお手伝いのできたことを、運営スタッフ一同、心より感謝しております。

最後になりましたが、本学術大会を運営するにあたり様々なご支援、ご助言を頂いた伊藤孝訓理事長をはじめ学会執行部の皆様、特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーの座長、講師をお引き受けいただいた皆様、後援および協賛、展示、広告を頂いた各団体、企業の皆様、そして学術大会にご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。